

請 願 文 書 表

受理年月日 及び番号	令和元年9月2日 第22号
件名	文の京の価値を上げるまちづくり条例策定のための 請願
請願者	  外5名
紹介議員	海津敦子 萬立幹夫
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	建設委員会

請願理由

文京区は文化的な史跡も多く、伝統ある大学や多くの学校ある文教のまちとして「ふみのみやこ」との愛称により他地域から移り住む人々が多い人気の住居地となっています。

しかし、事態を冷静に観察してみると急激な人口増加と開発がもたらした様々な影響が垣間見られます。急激な人口増加に対し、公共サービスを提供する側の整備が追いつかず、その恩恵を受ける人々に様々な悪影響を与えています。その最たる例が公立の小中学校です。

一度は少子化により合併統合し、数を減らした公立の小中学校には多くの生徒が転入してきて、クラス数は年々増えております。教育の質向上のため少人数教育の重要性が叫ばれる中、教育の理想と逆行するような現象です。

文京区は全国的にもいじめと不登校児が多いと統計にも現れています。余裕の無い学校環境の弊害がそれらの一因ともなっていると断言して過言ではないでしょう。良質な教育環境を求めて住まいを文京区としている区民も多い中、非常に由々しき事態です。

このような問題が起きるのは現状のまちづくりに関する仕組みに地域の事情、住民のニーズを反映するような仕組みが一切なく、定められた基準を満たせば許可がおりる定量的な制度であるためです。人口増加による生活への影響を先見的にまちづくりに反映できる、きめ細かく地元のニーズを汲み取る、住民参加型のまちづくり制度を作ることが早急に求められます。

また、都心の近接にありながら緑に囲まれ落ち着いた都市環境も区の魅力とされています。区内各所に空き家や空き室など非活用状態の土地が多く見受けられます。個別に土地の資産価値を上げようとする現状の制度では空き家や空き室が減らずに新築住宅が増えるミスマッチが起きてしまいます。まとまった地域で土地を活用する欧米のランドバンクのような制度を区で独自に導入すれば、非活用されている土地を緑化して生かし、資産価値を上げることができ、区の価値を上げることに繋がっていきます。その実施には地域との協議や協力を経ることが必須です。

SDGsにも定められた持続可能なまちづくりを可能にするため、「ふみのみやこ」として街の価値を上げるために以下の事項を請願します。

請願事項

- 1 住民参加型の仕組みを取り入れたまちづくり条例を策定してください。